

KAWAI

DIGITAL PIANO

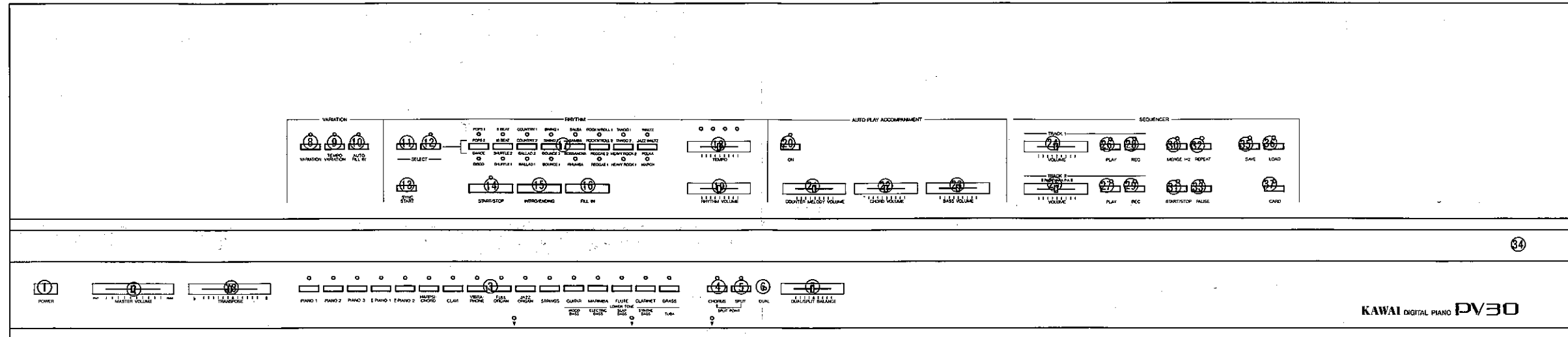
PV10

PV30

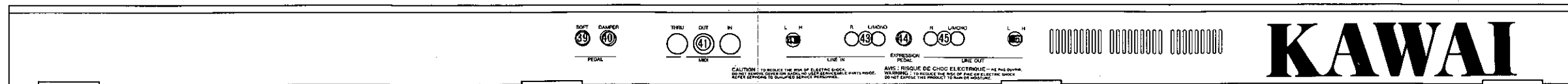
取扱説明書

各部の名称とおもな働き (PV30)

■フロントパネル



■リアパネル



『第1章 音を出してみましょう』参照

- ①電源スイッチ (POWER)
電源をON/OFFするスイッチです。長時間ご使用にならない時は、必ず電源を切ってください。
- ②マスターボリューム (MASTER VOLUME)
このレバーで電子ピアノ全体の音量を調整します。
- ③音色セレクトボタン
音色を選択するボタンです。ボタンを押すとランプが点灯してONになります。
- ④コーラス (CHORUS)
このボタンをONにすると、コーラス効果(ゆっくりとした音の広がり)が得られます。
- ⑤スプリット (SPLIT)
このボタンをONにすると、スプリット・モードでの演奏ができます。またコーラスボタンとの組み合わせでスプリット・ポイントの変更ができます。
- ⑥デュアル (DUAL)
音色セレクトボタンを2つ同時に押すことにより点灯し、デュアル・モードでの演奏ができます。
- ⑦デュアル/スプリットバランス(DUAL SPLIT BALANCE)
デュアル/スプリット・モードでの音量バランスの調整に使用します。

『第2章 リズムを加えてみましょう』参照

- ⑧バリエーション (VARIATION)
リズム・自動伴奏に変化をつけることができます。
- ⑨テンポ・バリエーション (TEMPO VARIATION)
セットするテンポによってリズム・自動伴奏に変化をつけることができます。
- ⑩オート・フィル・イン (AUTO FILL IN)
4小節ごとに自動的にフィル・インします。
- ⑪セレクトボタン (SELECT)
4行のリズム名のうち、上2行か下2行を選択します。
- ⑫セレクトボタン
点灯中は4行のリズム名の内側が、消灯中は外側のリズム名が選択されます。
- ⑬シンクロ・スタート (SYNC START)
鍵盤を押すと同時にリズム・自動伴奏をスタートさせることができます。
- ⑭スタート/ストップ (START/STOP)
リズム・自動伴奏がスタートします。もう一度押すとストップします。
- ⑮イントロ/エンディング (INTRO/ENDING)
リズム・自動伴奏をイントロパターンからスタートさせたり、エンディングパターンでストップさせることができます。
- ⑯フィル・イン (FILL IN)
一時的にリズム・自動伴奏を変化させることができます。
- ⑰リズム・セレクトボタン
リズムの種類を選びます。
- ⑱テンポレバー (TEMPO)
リズム(自動伴奏)のテンポを調整するレバーです。
- ⑲リズムボリューム (RHYTHM VOLUME)
リズムの音量を調整するレバーです。

『第3章 自動伴奏で演奏してみましょう』参照

- ⑳オート・プレイ・アカンパニメント (ON)
自動伴奏機能のON/OFFをします。
- ㉑カウンター・メロディーボリューム(COUNTER MELODY VOLUME)
カウンター・メロディー音の音量を調整するレバーです。
- ㉒コードボリューム (CHORD VOLUME)
コード音の音量を調整するレバーです。
- ㉓ベースボリューム (BASS VOLUME)
ベース音の音量を調整するレバーです。

『第4章 シーケンサーを使って』参照

- ㉔トラック1ボリューム (TRACK1 VOLUME)
トラック1の録音・再生時のレベル(音量)を調整するレバーです。
- ㉕トラック2ボリューム (TRACK2 VOLUME)
トラック2の録音・再生時のレベル(音量)を調整するレバーです。
- ㉖プレイ (PLAY)
トラック1に録音された演奏を再生する時に、このボタンをONにします。
- ㉗プレイ (PLAY)
トラック2に録音された演奏を再生する時に、このボタンをONにします。
- ㉘レコード (REC)
トラック1に演奏を録音する時に、このボタンをONにします。
- ㉙レコード (REC)
トラック2にリズム・自動伴奏を録音する時に、このボタンをONにします。
- ㉚マージ (MERGE 1-2)
トラック1に録音された演奏を、トラック2に移動(多重録音)する時に使います。
- ㉛スタート/ストップ (START/STOP)
トラック1での録音・再生をスタートする時に使います。
- ㉜リピート (REPEAT)
繰り返し再生する時に、このボタンをONにします。
- ㉝ポーズ (PAUSE)
録音・再生を一時停止する時に、このボタンをONにします。

『第5章 RAMカードを使って』参照

- ㉞カードスロット
カードを使用する時は、このスロットに差し込みます。
- ㉟セーブ (SAVE)
カードにデータを保存する時に、このボタンを押します。
- ㊱ロード (LOAD)
カードからデータを呼び込む時に、このボタンを押します。
- ㊲カード (CARD)
セーブ/ロードする時、また、本体からカードにメモリー切り替えをする時に、このボタンを押します。

『第7章 その他の機能』参照

- ㊳トランスポーズ (TRANSPOSE)
電子ピアノのキー(調)を変える時に、使うレバーです。
- ㊴ソフトペダル端子
オプションのスタンドに装備されているソフトペダルのプラグ(黒色)を接続します。
- ㊵ダンパーペダル端子
オプションのスタンドに装備されているダンパーペダルのプラグ(赤色)を接続します。

『第6章 MIDI (ミディ)』参照

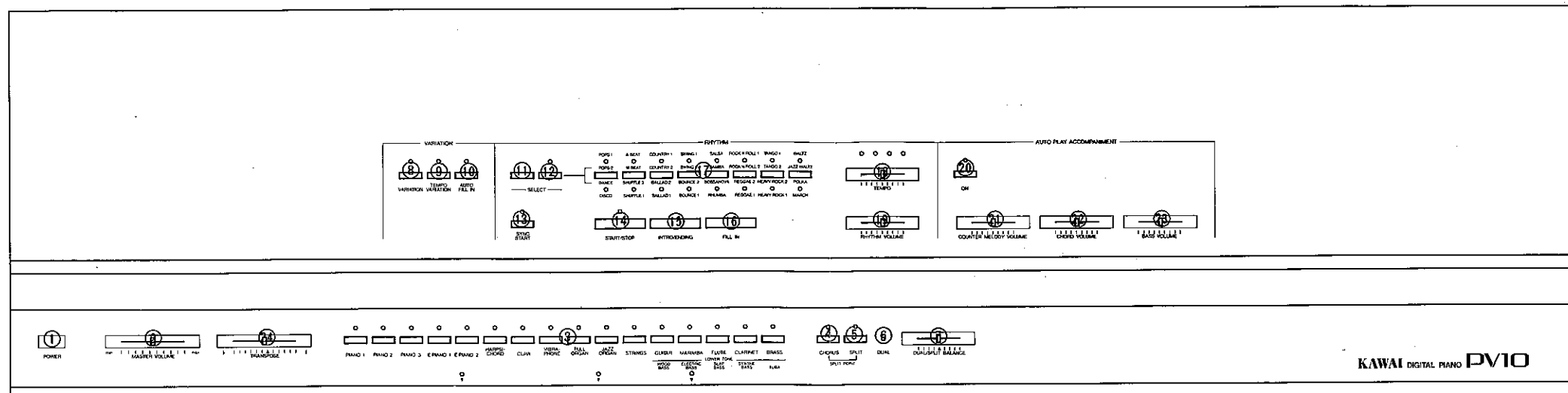
- ㊶MIDI端子
他のMIDI楽器(機器)と接続して、情報を交換する時に使います。

その他

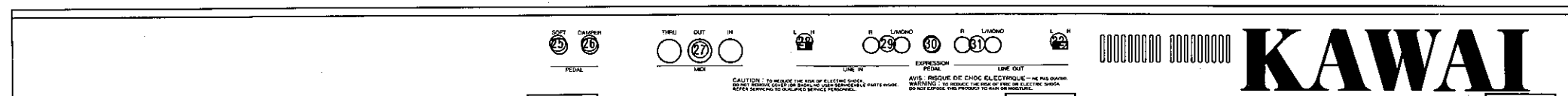
- ㊷入力レベル切り替えスイッチ (L/H)
ライン・インの入力信号レベルを切り替えるスイッチです。入力が大きい場合には、スイッチをL側に、逆に入力が小さい場合には、H側でご使用ください。
- ㊸ライン入力端子 (LINE IN)
他の電子楽器やカセットデッキ等の出力端子とこの端子を接続すると、電子ピアノ本体のスピーカーからその音を出ることができます。この場合、本体のボリュームでは、音量を調整できませんので、それぞれの機器側で調整してください。なお、モノラル信号は、L側に入力します。
- ㊹エクスペリメンタル端子
オプションのエクスペリメンタル(V-20X)を使用する時に接続する端子です。この場合、LINE INにより入力された信号にも効果があります。
- ㊺ライン出力端子 (LINE OUT)
電子ピアノの音を外部機器(アンプ、オーディオ等)で聴いたり、テープデッキ等で録音する場合に使用する端子です。この場合、本体のボリュームでその信号レベルを調整できます。モノラル信号は、L側から出力します。
- ㊻出力レベル切り替えスイッチ (L/H)
ライン・アウトの出力信号レベルを切り替えるスイッチです。スイッチをH側にすると出力レベルが大きくなり、L側になると、出力レベルは小さくなります。

各部の名称とおもな働き (PV10)

■フロントパネル



■リアパネル



『第1章 音を出してみましょう』参照

- ①電源スイッチ (POWER)
電源をON/OFFするスイッチです。長時間ご使用にならない時は、必ず電源を切ってください。
- ②マスターボリューム (MASTER VOLUME)
このレバーで電子ピアノ全体の音量を調整します。
- ③音色セレクトボタン
音色を選択するボタンです。ボタンを押すとランプが点灯してONになります。
- ④コーラス (CHORUS)
このボタンをONにすると、コーラス効果(ゆっくりとした音の広がり)が得られます。
- ⑤スプリット (SPLIT)
このボタンをONにすると、スプリット・モードでの演奏ができます。またコーラスボタンとの組み合わせでスプリット・ポイントの変更ができます。
- ⑥デュアル (DUAL)
音色セレクトボタンを2つ同時に押すことにより点灯し、デュアル・モードでの演奏ができます。
- ⑦デュアル/スプリットバランス(DUAL SPLIT BALANCE)
デュアル/スプリット・モードでの音量バランスの調整に使用します。

『第2章 リズムを加えてみましょう』参照

- ⑧バリエーション (VARIATION)
リズム・自動伴奏に変化をつけることができます。
- ⑨テンポ・バリエーション (TEMPO VARIATION)
セットするテンポによってリズム・自動伴奏に変化をつけることができます。
- ⑩オート・フィル・イン (AUTO FILL IN)
4小節ごとに自動的にフィル・インします。
- ⑪セレクトボタン (SELECT)
4行のリズム名のうち、上2行か下2行を選択します。
- ⑫セレクトボタン
点灯中は4行のリズム名の内側が、消灯中は外側のリズム名が選択されます。
- ⑬シンクロ・スタート (SYNC START)
鍵盤を押すと同時にリズム・自動伴奏をスタートさせることができます。
- ⑭スタート/ストップ (START/STOP)
リズム・自動伴奏がスタートします。もう一度押すとストップします。
- ⑮イントロ/エンディング (INTRO/ENDING)
リズム・自動伴奏をイントロパターンからスタートさせたり、エンディングパターンでストップさせることができます。
- ⑯フィル・イン (FILL IN)
一時的にリズム・自動伴奏を変化させることができます。
- ⑰リズム・セレクトボタン
リズムの種類を選びます。
- ⑱テンポレバー (TEMPO)
リズム(自動伴奏)のテンポを調整するレバーです。
- ⑲リズムボリューム (RHYTHM VOLUME)
リズムの音量を調整するレバーです。

『第3章 自動伴奏で演奏してみましょう』参照

- ⑳オート・プレイ・アカンパニメント (ON)
自動伴奏機能のON/OFFをします。
- ㉑カウンター・メロディーボリューム(COUNTER MELODY VOLUME)
カウンター・メロディー音の音量を調整するレバーです。
- ㉒コードボリューム (CHORD VOLUME)
コード音の音量を調整するレバーです。
- ㉓ベースボリューム (BASS VOLUME)
ベース音の音量を調整するレバーです。

『第7章 その他の機能』参照

- ㉔トランスポーズ (TRANPOSE)
電子ピアノのキー(調)を変える時に、使うレバーです。
- ㉕ソフトベダル端子
オプションのスタンドに装備されているソフトベダルのプラグ(黒色)を接続します。
- ㉖ダンパーベダル端子
オプションのスタンドに装備されているダンパーベダルのプラグ(赤色)を接続します。

『第6章 MIDI (ミディ)』参照

- ㉗MIDI端子
他のMIDI楽器(機器)と接続して、情報を交換する時に使います。

その他

- ㉘入力レベル切り替えスイッチ (L/H)
ライン・インの入力信号レベルを切り替えるスイッチです。入力が大きい場合には、スイッチをL側に、逆に入力が小さい場合には、H側でご使用ください。
- ㉙ライン入力端子 (LINE IN)
他の電子楽器やカセットデッキ等の出力端子とこの端子を接続すると、電子ピアノ本体のスピーカーからその音を出力することができます。この場合、本体のボリュームでは、音量を調整できませんので、それぞれの機器側で調整してください。なお、モノラル信号は、L側に入力します。
- ㉚エクスペッション端子
オプションのエクスペッションペダル (V-20X) を使用する時に接続する端子です。この場合、LINE INにより入力された信号にも効果があります。
- ㉛ライン出力端子 (LINE OUT)
電子ピアノの音を外部機器(アンプ、オーディオ等)で聴いたり、テープデッキ等で録音する場合に使用する端子です。この場合、本体のボリュームでその信号レベルを調整できます。モノラル信号は、L側から出力します。
- ㉜出力レベル切り替えスイッチ (L/H)
ライン・アウトの出力信号レベルを切り替えるスイッチです。スイッチをH側にするとう出力レベルが大きくなり、L側にすると、出力レベルは小さくなります。

このたびはカワイ電子ピアノPV10/30をお求めいただきましてありがとうございました。

カワイ電子ピアノPV10/30は、最新のエレクトロニクス技術と、カワイが長年に渡って培った楽器作りのノウハウから生れた画期的な鍵盤楽器です。

自然なピアノタッチの追及、鍵盤を弾く強さにより、音色、音量を幅広く変化させるタッチレスポンス機能は、本格的な演奏も可能にしました。さらにリズム、自動伴奏などのオートマチック機能や、シーケンサー、カードなどのメモリー機能は、初心者から高度な技術を駆使する方々まで幅広い音楽ジャンルにおいて演奏を楽しむことができます。

また、MIDI機能の装備によりいろいろな楽器とのパラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。

本機の演奏にあたりましては、この取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後も大切に保管し、わからないことがでてきた時などにご利用ください。

ご使用上の注意

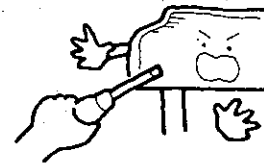
●電源について

電源は必ず家庭用100Vのコンセントを御使用ください。誤って100V以上の電源を使用しますと大変危険ですので、よくお確かめください。



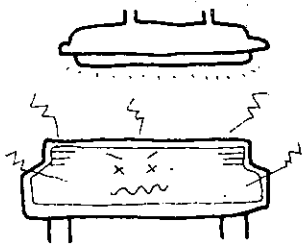
●故障等の注意

内部を開けて部品を取りはずしたり、改造したりすることは大変危険ですので絶対にやめてください。故障したと思われるときは、お求めの販売店、もしくはお近くのカワイまで御連絡ください。



●雑音について

モーターやネオンサイン、蛍光灯などが近くにありますが雑音の原因となりますので、本体の位置を変えてください。



●使用後の御注意

使用された後は、電源を必ず切ってください。長時間、電源をいれたままにしておくのは思わぬトラブルの原因となりますので御注意ください。

●電源プラグ、コードの取り扱い

電源プラグをぬれた手で触ったりすると感電する恐れがありますので、御注意ください。また、踏みつけたり、足でひっかけたりすると断線やショートの原因となりますので御注意ください。



目 次

各部の名称とおもな働き

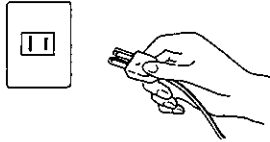
第1章 音を出してみましよう	1
シングル・モード/デュアル・モードでの演奏	1
スプリット・モードでの演奏	2
第2章 リズムを加えてみましよう	4
リズムの使い方	4
リズムに変化をつけてみましよう (VARIATION)	5
第3章 自動伴奏で演奏してみましよう	7
オート・プレイ・アカンパニメント(AUTO PLAY ACCOMPANIMENT)の使い方	7
第4章 シーケンサーを使って(PV30のみ)	9
4-1 録音	10
トラック1への録音	10
トラック2への録音	12
4-2 再生	13
再生の仕方	13
4-3 シーケンサーの効果的な使い方(マージ機能を使って)	14
部分演奏の編集	14
アンサンブル演奏の編集	15
第5章 カードを使って(PV30のみ)	16
カードの初期化	16
セーブの仕方	17
ロードの仕方	17
メモリーの切り替え	18
カードに異常がある場合	18
第6章 M I D I (ミディ)	19
6-1 M I D I の概要	19
6-2 M I D I の操作方法	19
M I D I ケーブルの接続について	19
M I D I 機能の設定	20
第7章 その他の機能	25
チューニング機能	25
トランスポーズ機能	25
ソフトペダルへの機能の割り付け	26
コード早見表	27
仕様	29
MIDIインプリメンテーションチャート	30

第1章 音を出してみよう

この章では、音をだすまでの手順を説明します。

■シングル・モード/デュアル・モードでの演奏

1 電源プラグをコンセントに差し込みます。

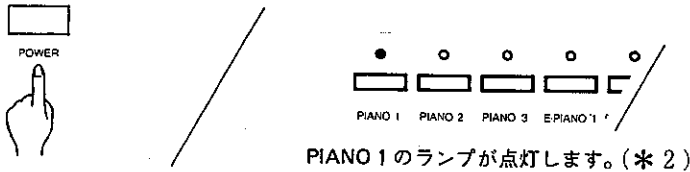


家庭用AC100Vのコンセントを使用します

(*1) 電源をONにした時は、電子ピアノの音の高さ(チューン)は基本ピッチに、またMIDIのチャンネルは1、オムニモードON、ローカルコントロールはONに設定されます。(MIDIについては第7章を参照。)

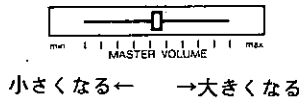
(*2) 同時にリズム、テンポのランプも点灯します。

2 電源スイッチをONにします。(*1)



PIANO 1のランプが点灯します。(*2)

3 マスターボリュームをセットします。(*3)

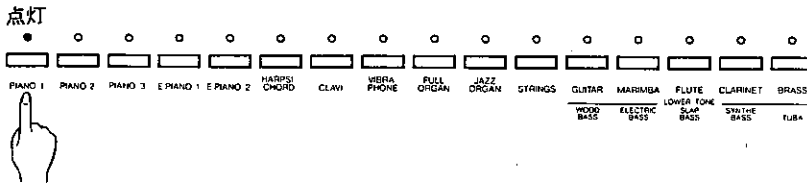


小さくなる ← → 大きくなる

(*3) とりあえず中央にセットしておきましょう。音を出してから再調整します。

(*4) 1つの音色で演奏することを、シングル・モードといいます。

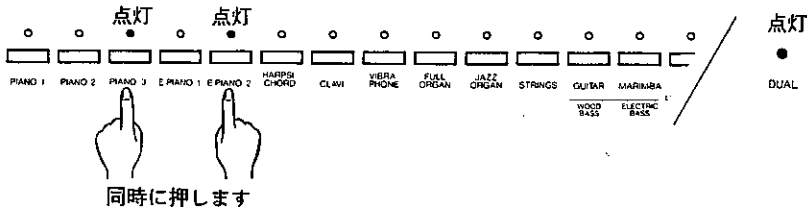
4-A 音色セレクトボタンの中から好きな音色を1つ選んでONにします。(*4)



(*4) 1つの音色で演奏することを、シングル・モードといいます。

(*5) 2つの音色を1つの鍵盤から同時に出すことをデュアル・モードといいます。

4-B 音色セレクトボタンの中から好きな音色を2つ選んで同時に押します。(*5)



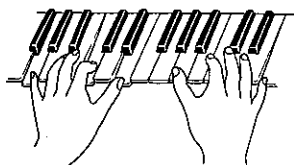
同時に押します

デュアル(DUAL)のランプが自動的に点灯します。

(*6) シングル・モードでは、同時に16の鍵盤まで押さえても発音されます。(16音ポリフォニック) また、デュアル・モードでは8音までが発音されます。(8音ポリフォニック)

(*7) デュアル・モードを解除する場合は、他の音色セレクトボタンを押すか、選択されているどちらかのボタンをもう1度押してください。

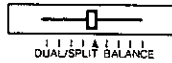
5 鍵盤を弾いてみましょう。(*6)



セットされた音が出ます。いろいろな音色に切り替えて演奏してみましょう。(*7)

6 ボリュームの調整をします。

全体のボリュームは、マスターボリュームで調整します。
デュアル・モードで演奏する場合はデュアル／(スプリット) バランスで2つの音色の音量バランスを調整します。

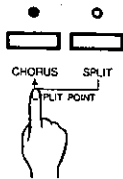


左側の音色の音量 ← → 右側の音色の音量
バランスが大きくなる バランスが大きくなる

右側／左側の音色は、パネル上のボタンの位置で設定されます。(※8)

7 コーラス (CHORUS) 効果を加えてみましょう。

このボタンをONにすると、音色がゆっくりと広がるコーラス効果が得られます。曲想に応じてご使用ください。

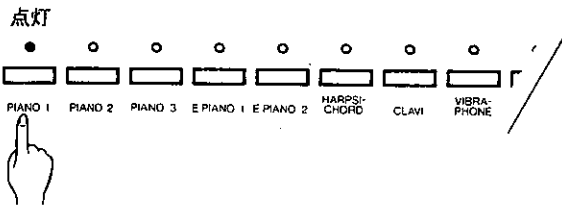


■ スプリット・モードでの演奏(※1)

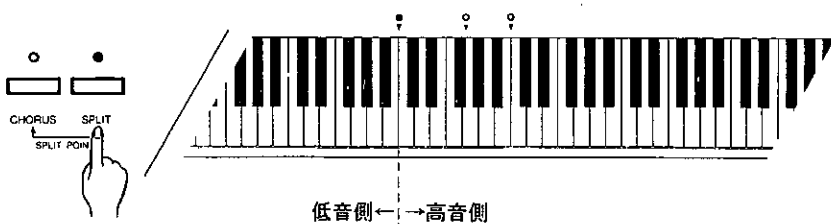
1 高音部の音色をセットします。

高音部の音色は、(シングル・モードの時と同様) そのままの状態音色セレクトボタンを押してセットします。

(先に2. の操作をしてから、音色をセットしてもかまいません。)



2 スプリット (SPLIT) のボタンをONにします。



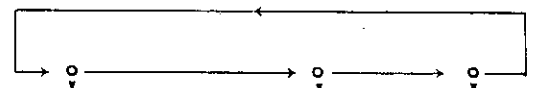
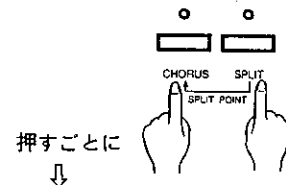
鍵盤の上部で点灯しているスプリット・ポイントを経にして、低音側と高音側に分かれます(※2)

(※8) 例えば、PIANO 1とSTRINGSが選択されている場合、PIANO 1が左側の音色、STRINGSが右側の音色になります。

また、音量バランスの調整は、鍵盤をたたきながら行ってください。鍵盤を押したままでレバーを動かしてもバランスは変化しません。

(※1) 鍵盤を低音側と高音側に分けて演奏することをスプリット・モードといいます。

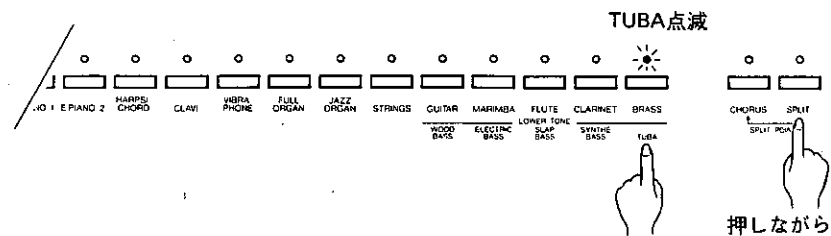
(※2) スプリット・ポイントを変更する場合には、スプリット (SPLIT) のボタンを押しながらコーラス (CHORUS) のボタンを押します。押すごとにスプリット・ポイントが移動します。



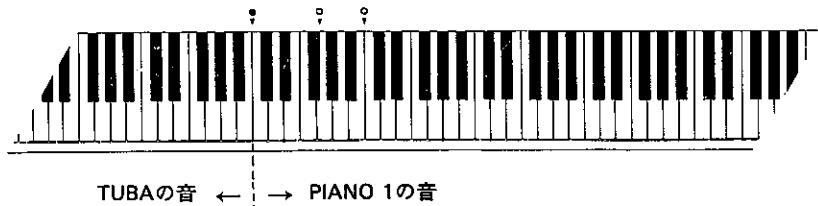
この時、1でセットした音色のランプが高音側の音色として点灯します。また、低音側の音色としては、初期設定されているWOOD BASSのランプが点滅します。(※3)

3 低音側の音色を変更します。

低音側の音色を変更する場合は、スプリット(SPLIT)のボタンを押しながら、音色セレクトボタンを押します。(※4)



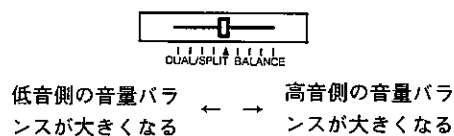
4 鍵盤を弾いてみましょう。



低音部と高音部からそれぞれセットした音が出ます。(※5)

5 低音側と高音側の音量バランスを調整します。

(デュアル) / スプリットバランスで低音側と、高音側の2つの音色の音量バランスを調整します。(※6)



(※3) デュアル・モードからスプリット・モードに移ることもできます。その場合、左側の音色が高音側になります。(スプリット・モードからデュアル・モードには移れません。スプリットをOFFにしてから設定してください。また、オート・プレイ・アカンパニメント(後述)のボタンがONの時は、デュアル/スプリット・モードには移れません。)

(※4) 低音側の音色として、右側の5つの音色セレクトボタンを押した場合、それぞれの音色は、下段のロー・トーン(LOWER TONE)の音色になります。一度設定した低音側の音色は、電源を切らない限り記憶しています。

(※5) 音色を切り替える場合、高音側(ランプが点灯)は、音色セレクトボタンを押すだけで変更できますが、低音側(ランプが点滅)は、スプリットボタンを押しながら音色セレクトボタンを押してください。

(※6) 音量バランスの調整は鍵盤をたたきながら行なってください。鍵盤を押しながらレバーを動かしてもバランスは変化しません。

第2章 リズムを加えてみましょう

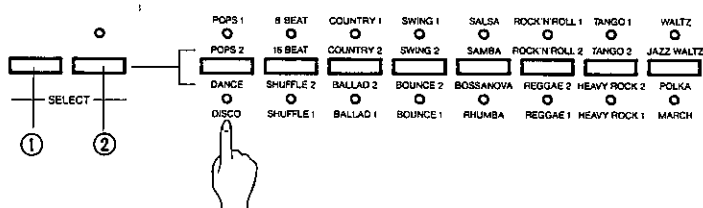
PVシリーズのリズムは、PCM音源を採用しています。ライブ感覚に迫るリアルなパーカッション・サウンドを楽しんでいただけます。32種類のリズムパターンには、さまざまなバリエーションを加えることができます。

■リズムの使い方

1 リズム・セレクトボタンの中からリズムを1つ選んでONにします。

セレクト (SELECT) ボタンについて

(例-左端のリズムセレクトボタンを押した場合)



①のボタンでリズムセレクトボタンに対して上段 (POPS 1、POPS 2) と下段 (DANCE、DISCO) のリズムを切り替えます。

②のボタンでリズムセレクトボタンに対して内側 (POPS 2、DANCE) と外側 (POPS 1、DISCO) のリズムを切り替えます。(*1)

2 リズムボリュームを調整します。(*2)



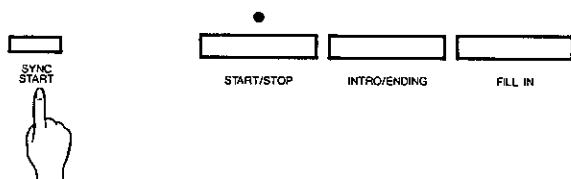
小さくなる ← → 大きくなる

3 リズムをスタートさせます。(*3)

リズムのスタート方法は、次の3通りあります。どの方法でスタートさせてもかまいません。

●シンクロ・スタート (SYNC STRAT)

このボタンを押すと、リズムのスタート/ストップボタンのランプが点滅し、リズムスタンバイの状態になります。鍵盤を押すと同時に選んだリズムがスタートし、ランプは点灯に変わります。(*4)



(*1) 内側のリズムが選択されている場合は、②のランプが点灯します。

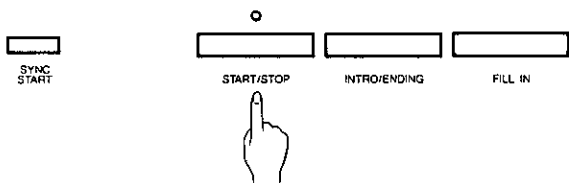
(*2) とりあえず中央にセットしておき、リズムをスタートしてから再調整します。マスターボリュームが最小の位置にあるとリズムボリュームを最大にしても小さな音しか出ません。

(*3) オート・プレイ・アカンパニメントがONの場合は、リズムだけでなく自動伴奏もスタートすることができます。(7ページ参照)

(*4) 押さえる鍵盤は、どの位置でもかまいません。リズムをストップするには、(スタート)/ストップボタンか、(イントロ)/エンディングボタンを押してください。

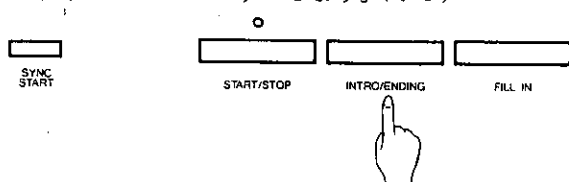
●スタート/ストップ (START/STOP)

このボタンを押すと同時に選んだリズムがスタートします。また、リズム演奏中にこのボタンを押すとリズムがストップします。



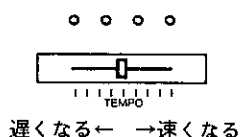
●イントロ/エンディング (INTRO/ENDING)

このボタンを押すと1小節のイントロパターンの後に、選んだリズムがスタートします。また、リズム演奏中にこのボタンを押すとエンディングパターンによりリズムがストップします。(*5)



(*5) イントロ/エンディングのパターンは、選んだリズムにふさわしいものがセットされています。カッコよくリズムをスタート/ストップさせることができます。

4 テンポレバーでリズムの速さを調整します。



(*6) 左端のテンポランプは、リズムをスタートさせる前でも1拍ごとに点滅しています。リズムスタート前にテンポを調整する場合は、このランプを目安に行いません。

テンポレバーは左側にするほど遅くなり、逆に右側にするほど速くなります。

テンポレバー上部のランプは、1拍ごとに左から右へ点滅し、リズムの拍子とテンポを示します。(*6)

5 リズムをストップさせるには...

(スタート)/ストップボタンまたは、(イントロ)/エンディングボタンを押します。(3、参照)

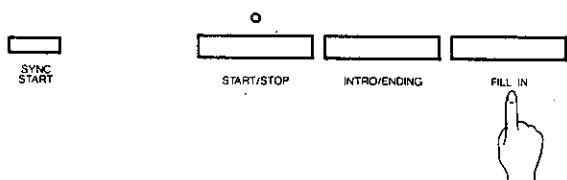
■リズムに変化をつけてみましょう。(VARIATION)

バリエーション・セクションの3つのボタンとリズム・セクションのフィル・インでリズム自動伴奏に変化をつけることができます。(*1)

●フィル・イン (FILL IN)

リズム演奏中にこのボタンを押すと、リズムを一時的にカッコよく変化させることができます。

フィル・インのスタートは、ボタンを押すタイミングによって異なります。



(*1) オート・プレイ・アкомпニメントが演奏されている場合は、リズムだけでなく自動伴奏のパターンも変化します。また、各バリエーションおよびフィル・インのパターンは、選んだリズムにふさわしいものがセットされています。

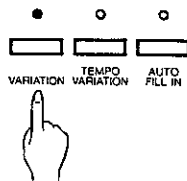
・ 1～2 拍目に押さえた場合

押さえた時点からその小節の最後までが、フィル・インのパターンになります。

・ 3 拍目以降に押さえた場合

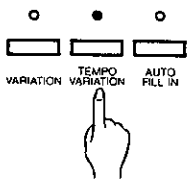
次の小節の第 1 拍目からフィル・インのパターンになります。

● バリエーション (VARIATION)



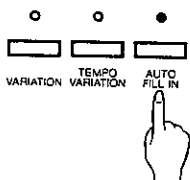
このボタンを ON にすると、リズムパターンに変化をつけることができます。(*2)

● テンポ・バリエーション (TEMPO VARIATION)



このボタンを ON にすると、セットしたリズムのテンポによって 2 種類のリズムパターンに変化します。(*3)

● オート・フィル・イン (AUTO FILL IN)



このボタンを ON にすると、4 小節目ごとにいろいろなパターンのフィル・インが自動的に入ります。(*4)

(*2) テンポ・バリエーション、オート・フィル・インと同時に使うこともできます。

(*3) バリエーション、オート・フィル・インと同時に使うこともできます。

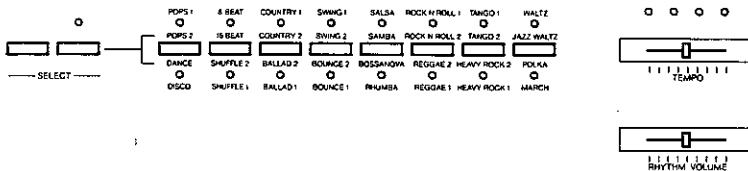
(*4) バリエーション、テンポ・バリエーションと同時に使うこともできます。

第3章 自動伴奏で演奏してみましょう

複雑な伴奏も、コードを和音で押さえるだけで自動伴奏が楽しめます。

■ オート・プレイ・アカンパニメント (AUTO PLAY ACCOMPANIMENT) の使い方

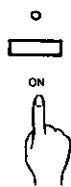
1 リズム・セレクトボタンでリズムを選びます。(*1)



(*1) リズムの選び方は、4ページ参照。

リズムのテンポ、ボリュームも調整しましょう。

2 オート・プレイ・アカンパニメントのボタンをONにします。(*2)

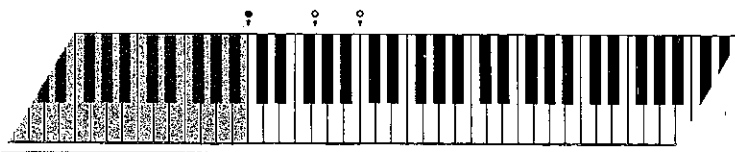


(*2) オート・プレイ・アカンパニメントのボタンがONの場合は、デュアル・モード、スプリット・モードでの演奏はできません。シングル・モードのみとなります。(各モードについては、第2章参照。)

鍵盤の上部にあるスプリット・ポイントのランプが点灯します。(*3)

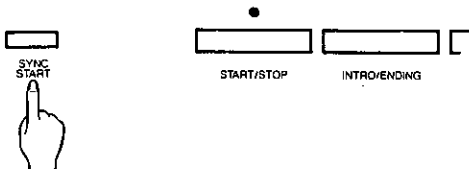
スプリット・ポイントより低音側の鍵盤が、自動伴奏用の鍵盤になります。

(*3) スプリット・ポイントを変更する場合は、スプリットボタンを押しながらコーラスボタンを押します。(2ページ参照)



自動伴奏用の鍵盤

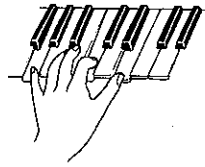
3 シンクロ・スタートのボタンをONにします。



スタート/(ストップ)または、イントロ/(エンディング) ボタンを押して、先にリズムだけをスタートさせておいてもかまいません。(*4)

(*4) リズムをスタートさせずに、オート・プレイ・アカンパニメントをONにして、伴奏用の鍵盤を押さえた場合は、通常のシングル・モードと同様に高音側でセットされている音が出ます。

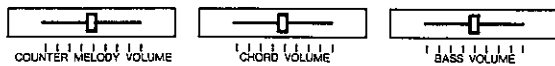
4 自動伴奏用の鍵盤を和音で押さえてみましょう。



鍵盤を押さえると同時にリズム、自動伴奏がスタートします。(*5)

5 ボリューム・バランスを調整します。

伴奏音を聴きながら、カウンター・メロディー (COUNTER MELODY)、コード (CHORD)、ベース (BASS) の各ボリュームでバランスを調整します。(*6)



小さくなる ← → 大きくなる

6 自動伴奏に変化をつけてみましょう。

バリエーション・セクションのバリエーション (VARIATION)、テンポ・バリエーション (TEMPO VARIATION)、オート・フィル・イン (AUTO FILL IN) のボタンを必要に応じてONにします。(*7)
また、フィル・インによる変化もつけることができます。



7 自動伴奏をストップするには……

- ・ (スタート) / ストップボタンを押します。
このボタンを押すと同時にリズム、自動伴奏がストップします。
- ・ (イントロ) / エンディングボタンを押します。
このボタンを押すとリズム、自動伴奏がエンディングパターンに変わり、終了すると自動的にストップします。

(*5) メモリー機能により、鍵盤から手を離しても押さえたコードでの伴奏が繰り返されます。コードが変わる時だけ鍵盤を押さえてください。

コードの押さえ方は、最後のコード表を参照ください。

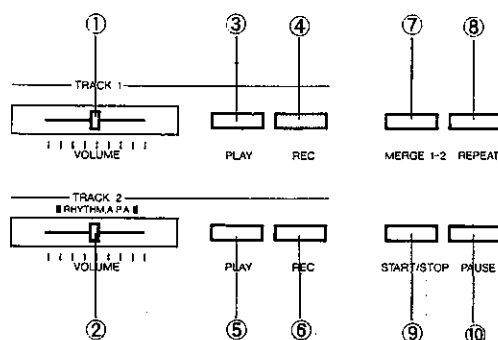
(*6) カウンター・メロディー、コード、ベースの各音色は、あらかじめそれぞれのリズムに合ったものがセットされています。(変更することはできません。)

(*7) 各バリエーションボタンの操作方法は、リズムバリエーションの場合と同じです。(5ページ参照)

第4章 シーケンサーを使って (PV30のみ)

シーケンサー (SEQUENCER) では、マニュアル演奏やリズム・自動伴奏による演奏を、それぞれ独立したトラックで録音・再生することができます。

両手による同時演奏が難しい曲でもこの機能を使えば、右手だけ、左手だけに集中して演奏することができます。また、マージ機能により複数のパートを順次いろいろな音色で演奏し、多重録音することもできます。



- ①TRACK 1 VOLUME……………トラック1での録音レベル、再生時の音量レベルを調整します。
- ②TRACK 2 VOLUME……………トラック2でのリズム、自動伴奏の録音レベル、再生時の音量レベルを調整します。(トラック1からマージされた情報に対しては機能しません。)
- ③TRACK 1 PLAY……………このボタンをONにするとトラック1の再生がスタンバイします。
- ④TRACK 1 REC……………このボタンをONにするとトラック1の録音がスタンバイします。
- ⑤TRACK 2 PLAY……………このボタンをONにするとトラック2の再生がスタンバイします。
- ⑥TRACK 2 REC……………このボタンをONにするとトラック2の録音がスタンバイします。
- ⑦MERGE 1-2……………このボタンをONにするとトラック1の情報がトラック2に移動します。その結果、トラック1はクリアされ新たな演奏を録音することができます。また、トラック2にはマージする前のトラック1・2両方の情報が録音されます。
- ⑧REPEAT……………このボタンをONにすると、再生が繰り返し行われます。
- ⑨START/STOP……………トラック1に対しては、録音・再生時のスタート/ストップボタンとして機能します。また、トラック2に対しては、録音・再生時のストップボタンとして機能します。(スタートボタンとしては、機能しません。)
- ⑩PAUSE……………このボタンをONにすると、各トラックの再生・録音が一時停止します。(この時、トラック1でのみPLAY←→RECのモードを変更することができます。) ボタンをもう1度押してOFFにするか、鍵盤を押さえると、再生・録音が再開できます。

■それぞれのトラックで録音 (記憶) される情報

●トラック1

トラック1にはマニュアル演奏 (リズム、自動伴奏を使用しない演奏) についての情報が録音されます。リズム、自動伴奏については録音されません。録音される情報は以下の通りです。

- ・打鍵情報
- ・音色セレクト情報
- ・トラック1ボリュームの位置および変化
- ・ペダルのON/OFF

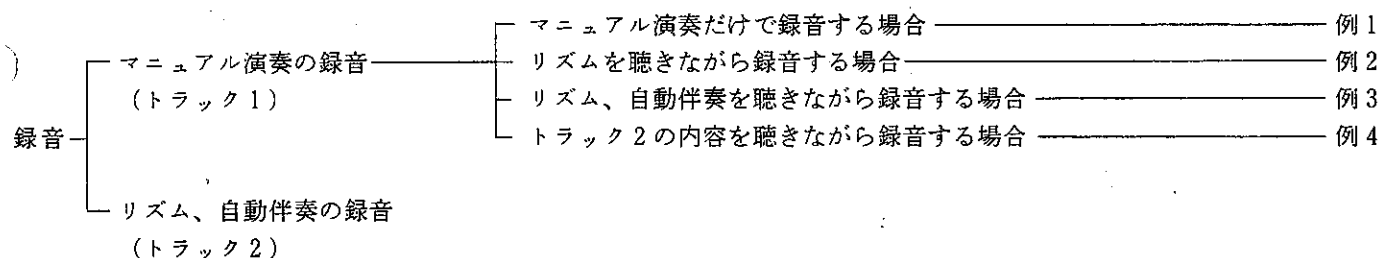
●トラック2

トラック2には通常リズム、自動伴奏についての情報が録音されます。ただしトラック1の情報をマージした場合には、その内容も録音されます。録音される情報は以下の通りです。

- ・リズムセレクト情報（フィル・イン、バリエーションの使用状況も記憶されます。）
- ・リズムボリュームの位置および変化
- ・自動伴奏のパターン情報（フィル・イン、バリエーションの使用状況も記憶されます。）
- ・自動伴奏における各パートのボリューム（カウンター・メロディー、コード、ベース）の位置及び変化
- ・テンポレバーの位置及び変化

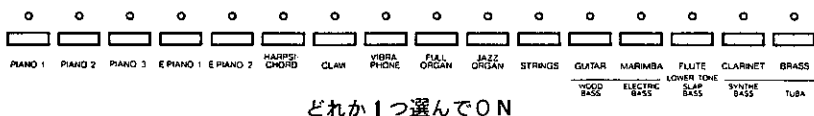
4-1 録音

録音には大きく分けてトラック1へのマニュアル演奏の録音と、トラック2へのリズム、自動伴奏の録音とがあります。さらにトラック1への録音はその演奏環境により、次のように分けることができます。



■トラック1への録音

1 音色セレクトボタンで音色を1つ選んでONにします。

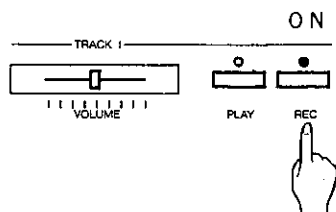


どれか1つ選んでON

録音時にデュアルモードを設定することはできません。(*1)

2 トラック1のレコードボタンをONにします。

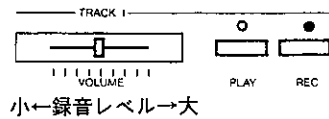
(トラック2のレコードボタンはOFFにしておきます。)



ランプが点灯して録音スタンバイとなります。

(*1) 自動伴奏のボタンがOFFの場合は、スプリットモードで録音することもできます。(スプリットモードでの音色設定は、2ページ参照)
その場合、スプリット・バランスによる低音部と高音部のバランス調整はできません。(バランスは一定となります。)

3 トラック1の録音レベルをセットします。



4 演奏環境のセッティングをします。

◆(例1) マニュアル演奏だけで録音する場合

- ①リズムをOFFにします。(※2)
- ②オート・プレイ・アカンパニメントのボタンをOFFにします。

◆(例2) リズムを聴きながら録音する場合

- ①オート・プレイ・アカンパニメントのボタンをOFFにします。
- ②リズム・セレクトボタンによりリズムを選びます。(※3)
- ③メトロノーム音を聴きながら録音したいテンポにセットします。(※4)
- ④リズムボリュームを調整します。

◆(例3) リズム、自動伴奏を聴きながら録音する場合

- ①オート・プレイ・アカンパニメントのボタンをONにします。(※5)
- ②(例2)と同様、リズムを選んでテンポ、ボリュームを調整します。

◆(例4) 先に録音したトラック2の内容を聴きながら録音する場合。

- ①トラック2のプレイボタンをONにします。(※6)

5 録音をスタートします。

録音のスタート方法は、演奏環境により次の方法があります。

◆(例1) の場合

- A、シーケンサー・セクションのスタート/(ストップ)ボタンを押して演奏を開始します。

◆(例2)(例3) の場合 (A/Bどちらの方法でもかまいません。)

- A、リズム・セクションのスタート/(ストップ)ボタンまたは、イントロ/(エンディング)ボタンを押して演奏を開始します。(※7)
- B、リズム・セクションのシンクロ・スタートボタンを押して、演奏を開始します。(※8)

◆(例4) の場合 (A/Bどちらの方法でもかまいません)

- A、リズム・セクションのスタート/(ストップ)ボタンを押して演奏を開始します。(※9)
- B、リズム・セクションのシンクロ・スタートボタンを押して、演奏を開始します。(※10)

6 演奏が終わったら録音をストップします。

録音をストップするには、次の方法があります。

(A/Bどちらの方法でもかまいません。)

- A、シーケンサー・セクションの(スタート)/(ストップ)ボタンを押します。
- B、リズム・セクションの(スタート)/(ストップ)ボタンを押します。(※11)

(※2) リズムが鳴っている場合はリズム・セクションの(スタート)/(ストップ)ボタンを押して、ストップします。

(※3) リズムのセット方法は4ページを参照。

(※4) 再生時のテンポは、録音時のテンポになります。ただしテンポレベルにより再生時に調整することもできます。

(※5) スプリット・ポイントより低音側は自動伴奏用の鍵盤になり、この部分での演奏は録音されません。スプリット・ポイントの変更は2ページ参照。

(※6) トラック2への録音は、12ページおよびマージの項を参照。

(※7) リズム、自動伴奏がスタートすると同時に録音も開始されます。

シーケンサー・セクションのスタート/(ストップ)ボタンを押した場合は、リズム、自動伴奏はスタートしませんが、(例1)同様に演奏内容は録音されます。

(※8) 鍵盤を押すと同時にリズム、自動伴奏がスタートし、録音も開始されます。

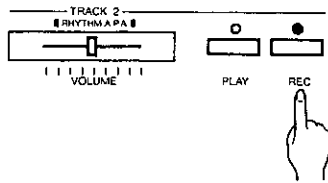
(※9) シーケンサー・セクションのスタート/(ストップ)ボタンを押した場合は、トラック2のリズム、オート・プレイ・アカンパニメントの内容は再生されません。ただしトラック1への録音は可能です。

(※10) 鍵盤を押すと同時にトラック2に録音されている内容が再生され、録音が始まります。

(※11) トラック2のレコード、プレイボタンが両方共OFFの場合は、(イントロ)/(エンディング)ボタンでも録音をストップすることができます。(例2、例3の場合)

■トラック2への録音

1 トラック2のレコードボタンをONにします。

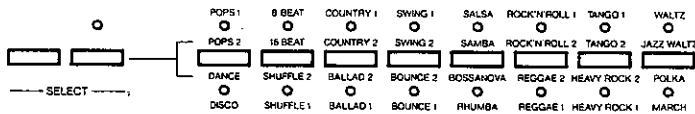


自動的にオート・プレイ・アカンパニメントがONになり、スプリット・ポイントが設定されます。

スプリット・ポイントの変更は、レコードボタンをOFFにして行なってください。(※1)

トラック1にも同時に録音する場合は、音色をセットしてからトラック1のレコードボタンをONにします。(※2)

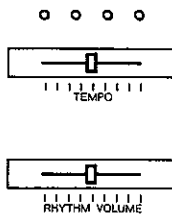
2 リズム、セレクトボタンでリズムを1つ選んでONにします。(※3)



必要に応じてバリエーションもONにします。

3 テンポおよび、各ボリュームバランスを調整します。

(※4)



テンポ調整は、メトロノーム音を聴きながら行います。

4 トラック2の録音レベルをセットします。

5 録音をスタートします。

録音のスタートは、次のいずれの方法でもかまいません。

A、リズム・セクションのスタート／(ストップ) ボタンまたは、イントロ／(エンディング) ボタンを押して演奏を開始します。(※5)

B、リズム・セクションのシンクロ・スタートボタンを押して演奏を開始します。(※6)

6 演奏が終わったら録音をストップします。

録音のストップは、次のA/Bどちらの方法でもかまいません。

A、シーケンサー・セクションの(スタート)／ストップボタンを押します。

B、リズム・セクションの(スタート)／ストップボタンまたは、(イントロ)／エンディングボタンを押します。

(※1) オート・プレイ・アカンパニメントはトラック2に録音中はOFFにすることができません。

また、スプリット・ポイントを変更する場合は2ページを参照。

(※2) この場合、トラック1にはスプリット・モードで録音することはできません。

(※3) リズムのセット方法は4ページ参照

(※4) 演奏中のテンポ、ボリュームの変更も記憶されます。また、再生時に変更することもできますが、録音時にテンポ、各ボリュームの変更があった場合は、その時点で録音時のテンポ、ボリュームに戻ります。

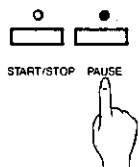
(※5) ボタンを押すと同時に録音がスタートします。

シーケンサー・セクションのスタート／(ストップ) ボタンを押した場合は、コードを押さえてもリズム、自動伴奏がスタートせず、トラック2に録音することはできません。

(※6) 鍵盤を押さえると同時にリズム・自動伴奏が鳴り、録音がスタートします。

7 録音を途中で一時停止するには…

①一時停止させたい時にポーズボタンをONにします。



一時停止中はランプが点灯します(*7)

②一時停止を解除する時は、もう1度ポーズボタンを押してOFFにします。また、停止状態で鍵盤を押さえれば、自動的にシンクロスタートします>(*8)

4-2 再生

録音が終わったら再生させて聴いてみましょう。

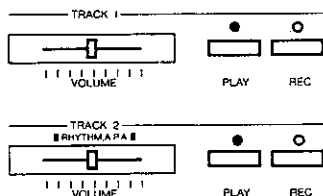
■再生の仕方

1 再生したいトラックのプレイボタンをONにします。

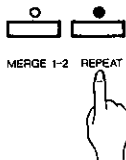
(*1)

ランプが点灯して再生スタンバイとなります。

2 再生時のボリュームをセットします>(*2)



3 繰り返し再生する時は、リピートボタンをONにします。



このボタンがONの時は、再生が終了すると数秒後に最初に戻って繰り返し再生されます>(*3)

4 再生をスタートします。

(A/Bどちらの方法でもかまいません)

A、リズム・セクションのスタート/(ストップ)ボタンを押します>(*4)

B、リズム・セクションのシンクロ・スタートボタンを押してから鍵盤を押します>(*5)

タッチ、テンポ、ボリュームバランスも録音時の演奏どおりに再生されます>(*6)

(*7) 一時停止中にトラック1のみレコード、 \leftrightarrow プレイの変更をすることができません。(トラック2ではできません。)録音に失敗した時などは、この機能を使って途中から録音し直すことができます。

(*8) シーケンサーおよびリズムセクションのスタート/ストップボタンでは解除できません。(通常のストップ状態になります。)

(*1) トラック1・2のプレイボタンを両方共ONにして、両トラックを同時に再生することもできます。

(*2) シーケンサー・セクションのボリュームレバーは録音時は入力レベルとして、また、再生時は出力(音量)レベルとして機能します。

(*3) リピートONで、トラック1・2を同時にリピート再生する場合、どちらか長い方のトラックの再生が終了してから両トラックの最初に戻ります。

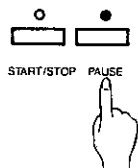
(*4) シーケンサー・セクションのスタート/(ストップ)ボタンを押した場合は、トラック1のみが再生されます。(トラック2のリズム、オート・プレイ・アカンパニメントは再生されません。)

(*5) イン트로/エンディングボタンによる再生のスタート、ストップはできません。

(*6) トラック1・2を同時に再生する場合、後から録音したトラックのテンポで再生されます。必要に応じてテンポ、ボリュームの再調整をすることができます。

5 再生を途中で一時停止するには……

①一時停止させたい時にポーズボタンをONにします。



一時停止中は、ランプが点灯します。(※7)

②一時停止を解除する時は、もう1度ポーズボタンを押してOFFにします。(※8)

6 再生が終わると自動的にストップします。

リピート再生している場合は、リズム・セクションおよびシーケンサー・セクションの(スタート)/ストップボタンを押すと再生がストップします。

(※7) 一時停止中にトラック1のみレコード
←→プレイの変更をすることができます。
(トラック2ではできません。)

(※8) シーケンサーおよびリズム・セクションのスタート/ストップボタンでは、解除できません。(通常のストップ状態になります。)

4-3 シーケンサーの効果的な使い方(マージ機能を使って)

両手による同時演奏が難しい曲の場合や、一人でいくつもの音色を使ってアンサンブル演奏を楽しみたい時など、シーケンサーのマージ機能を使えば簡単に編集することができます。

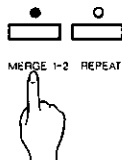
■部分演奏の編集

1 トラック1に左手の演奏を録音します。

- ①左手部分の音色をセットします。
- ②トラック1のレコードボタンをONにします。
- ③演奏する曲のイメージに近いリズムをセットします。(※1)
- ④録音をスタートさせて、演奏を開始します。(※2)
- ⑤演奏が終わったら録音をストップします。

2 マージボタンをONにします。

マージの実行中はランプが点灯



トラック1に録音した左手の演奏をトラック2に移すことができます。
(※3)(トラック1はクリアされます。)

3 トラック2を再生させながらトラック1に右手の演奏を録音します。(※4)

4 トラック1・2を同時に再生します。

必要に応じて再生時のテンポ、ボリュームを調整します。(※5)

(※1) テンポは再生時に調整することができます。やや遅めにセットして正確に演奏しましょう。

セットの仕方は、11ページ『◆(例2)リズムを聴きながら録音する場合』参照。

(※2) 録音のスタート方法は、11ページ(例2)参照。

(※3) 通常の録音では、トラック2にマニュアル演奏の情報を録音させることはできません。またマージした場合、トラック1のボリュームについては、その時のレバーの位置とは関係なく、録音した時のボリュームでマージされます。

(※4) セットの仕方は、11ページ『◆(例4)先に録音したトラック2の内容を聴きながら録音する場合』参照。また、録音のスタートは11ページ参照。

(※5) 録音時に左手または右手だけでなく両手で演奏した場合は、連弾演奏として楽しむことができます。

5 もう1度、マージボタンを押すと……

3、で録音したトラック1の演奏はトラック2に多重録音され、新たな演奏をトラック1に録音することができます。

■アンサンブル演奏の編集

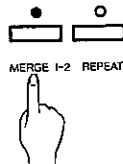
1 トラック2にリズム、自動伴奏を録音します。(*6)

2 トラック2を再生させながら演奏をトラック1に録音します。(*7)

トラック1・2を同時に録音することもできます。
(12ページ参照)

3 マージボタンをONにします。

マージの実行中はランプが点灯



トラック1に録音した演奏はトラック2に移動し、トラック1はクリアされます。

4 トラック2を再生させながら他のパートをトラック1に録音します。(*8)

5 マージボタンを押します。

以下、各パートをいろいろな音色で演奏し、それをマージすることにより順次トラック2に多重録音していきます。

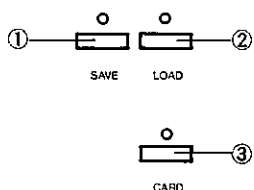
6 録音が終わったらトラック1・2を同時に再生します。

(*6) セットの仕方および録音のスタートは12ページ『■トラック2への録音』参照

(*7) セットの仕方は、11ページ『◆(例4)先に録音したトラック2の内容を聴きながら録音する場合』参照。また、録音のスタートは11ページ参照。

(*8) 再生時、トラック1からマージされた内容については、トラック2ボリュームレバーで音量を調整することはできません。ボリュームについては、その時のレバーの位置とは関係なく、録音時のボリュームでマージされます。トラック2ボリュームは、リズム・自動伴奏音についてのみ有効となります。

第5章 カードを使って (PV30のみ)



①SAVE……P V30本体内に記憶されているシーケンサーの情報を、カードに保存する時に使用します。

②LOAD……カードに保存されているシーケンサーの情報を、P V30本体のメモリーに呼び込む時に使用します。

③CARD……セーブ／ロード操作の時および、P V30本体のメモリーからカード内のメモリーに切り替える時に使用します。

次のような場合には、P V30本体内のシーケンサーに記憶された情報をカードにセーブ（保存）しましょう。

・大切なシーケンサーの情報（演奏）を長期間、保存したい場合。

（P V30では、電源をOFFにしてもシーケンサーの情報は、約7日間は保存されます。しかし大切な情報は必ずカードにセーブするようにしましょう。）

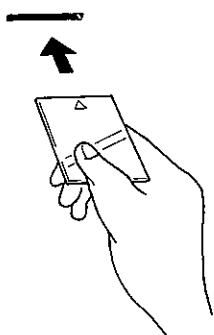
・P V30本体内のシーケンサーに記憶された情報とは別の情報を作成（記憶）する場合。

（P V30本体内のシーケンサーでは新たに演奏を録音した場合、各トラックに記憶されていた先の情報（演奏）は、消去されてしまいます。）

また、カードの内容をP V30本体内にあるシーケンサーのメモリーに呼び込むことをロードといいます。

■カードの初期化 (*1)

1 カードを正しく差し込みます。 (*2)



KAWAI CARDと書かれた面を上側にして、カードと本体の▲マークを合わせて差し込みます。

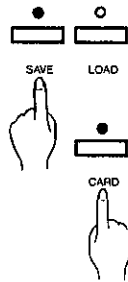
(*1) 付属のカードをP V30で使用できるようにする操作で、初めて使うカードにはこの操作をしてください。

(*2) カードはDC-32 (32キロバイト) を使用します。それ以外のカードは使用できません。

2 カードボタンを押しながら、セーブボタンを押します。

(※3)

初期化の実行中はランプが点灯し、実行終了後は消灯します。



カードボタンを押しながら

■セーブの仕方

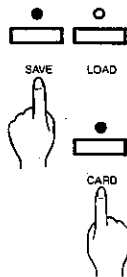
1 カードを正しく差し込みます。

KAWAI CARDと書かれた面を上側にして、カードと本体の▲マークを合わせて差し込みます。

2 カードボタンを押しながら、セーブボタンを押します。

(※1)

セーブの実行中はランプが点灯し、実行終了後は消灯します。



カードボタンを押しながら

3 カードを抜きます。

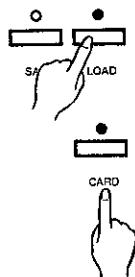
挿入する時と同様、ていねいに取り扱ってください。

■ロードの仕方

1 カードを正しく差し込みます。(※1)

KAWAI CARDと書かれた面を上側にして、カードと本体の▲マークを合わせて差し込みます。

2 カードボタンを押しながら、ロードボタンを押します。



ロードの実行中はランプが点灯し、実行終了後は消灯します。

カード内のデータがPV30本体のメモリーに呼び込まれます。(※2)

(※3) 初期化していないカードや使用できないカードまたは、カードが正しく差し込まれていない場合は、カードボタンを押すとランプがしばらく点滅して消えます。

(※1) カードボタンを押さずにセーブ(ロード)ボタンを押した場合は、無効となります。

また、セーブするカードに既にデータが入っている場合は、前のデータは、消去されてしまいます。大切なカードは、チェックしておきましょう。

(※1) セーブ時同様カードの取扱いは正しく行ってください。またカードが正しく挿入されていないとロードすることができません。

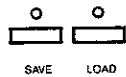
(※2) PV30本体内にある各トラックのメモリーにデータが入っていた場合は、消去されて呼び込まれたデータに変わります。

■メモリーの切り替え

この機能を使うことにより、本体内のデータはそのままでカード内のメモリー領域を直接使うことができます。(*1)

1 カードを正しく差し込みます。

2 カードボタンをONにします。



本体のメモリーからカードのメモリーに切り替わりました。

3 この状態でシーケンサーに録音すると…… (*2)

各トラックの録音データは、直接カード内に記憶されます。

4 この状態でシーケンサーを再生すると…… (*3)

カード内に記憶されている各トラックの演奏データが再生されます。

■カードに異常がある場合

カワイDC-32以外のカードを差し込んだり、録音中にカードを引き抜いたりして、カード内のデータが、異常になった場合は、カードのボタンを押すとカードのランプが数回点滅して消え、カードが異常であることを示します。

このような時は、カワイ・カードDC-32が正しく挿入されていることを確認して、もう1度セーブの操作を行ってください。(*1)

(*1) 通常シーケンサーでの演奏データは、PV30本体内のメモリー領域に記憶されます。

(*2) 録音の手順は、10ページ参照。本体内のメモリーに録音する場合と同じ要領で録音します。

(*3) 再生の手順は、13ページ参照。本体内の各トラックを再生する要領で再生します。

(*1) セーブの操作については17ページ参照。

また、カード使用上の注意については、カードの取り扱い説明書も必ずお読みください。

第6章 MIDI (ミディ)

MIDI (ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーやドラムマシンなどの電気・電子楽器どうしを接続するための国際規格です。

MIDI機能を装備した楽器間では、鍵盤情報などを相互に交換し合うことができます。(交換し合うことのできる情報は、各楽器によって異なります。)

6-1 MIDIの概要

●接続方法

MIDIでは接続方法により、情報を送信する楽器、受信する楽器、および送・受信の両方を行う楽器に分かれます。

情報を送信する楽器はMIDI端子のOUTにケーブルを接続し、受信する楽器はINに接続します。また、受信した情報をそのまま他の楽器に転送する場合は、THRU端子を使います。(*1)

●PVシリーズのMIDI機能

PVシリーズのMIDIでは次のようなことができます。

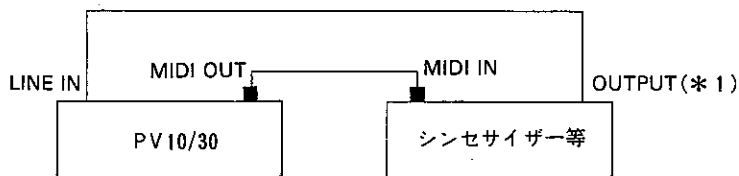
- ・送・受信チャンネルの設定(*2)
- ・鍵盤情報の送・受信(*3)
- ・プログラム(音色)ナンバーの送・受信(*4)
- ・ソフトペダル、ダンパーペダルのON/OFF情報の送・受信
- ・受信時のローカルコントロールON/OFF設定
- ・クロック情報およびスタート/ストップ情報の送信

6-2 MIDIの操作方法

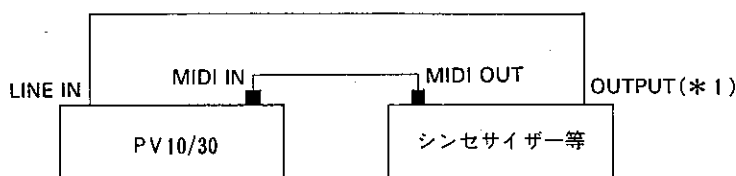
■MIDIケーブルの接続について

ケーブルは、正しく接続してください。

●PV10/30(送信)で他の楽器(受信)をコントロールする場合。

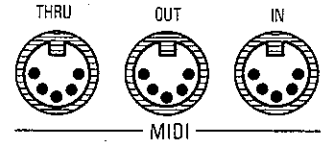


●他の楽器(送信)でPV10/30(受信)をコントロールする場合。



(*1)

MIDIコネクター



接続には、MIDI専用ケーブル(オプション)を使用します。

(*2) 送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルが同じ場合のみ各情報を交換し合うことができます。

(*3) PV10/30を弾くことにより他の楽器から音を出したり、その逆もできます。

(*4) PV10/30で他の楽器の音色を変えたり、その逆もできます。

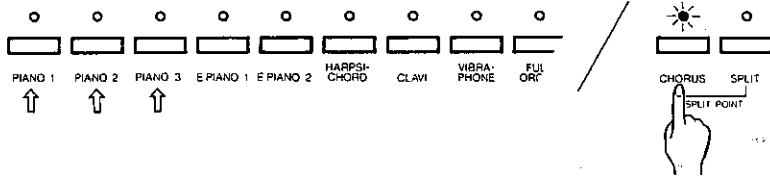
(*1) 接続する楽器に内蔵アンプおよびスピーカーがない場合には、接続楽器のOUTPUTとPV10/30または、オーディオ機器等のLINE INを接続してください。

■MIDI機能の設定

PVシリーズのMIDI機能は、設定モードにおいて設定することができます。

・設定モードへの入り方

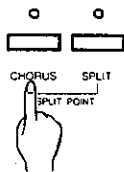
CHORUSボタンを押しながらPIANO 1・PIANO 2・PIANO 3のボタンを同時に押します。



CHORUSのランプが点滅し(PIANO 1のランプも点滅します。)設定モードに入ったことを示します。(*1)

・設定モードからの抜け出し方

点滅しているCHORUSのボタンを押します。



CHORUSのランプが消灯し、設定モードに入る前の状態に戻ります。

●プログラム(音色)ナンバーの送信

CHORUSボタンを押しながらPIANO 1・PIANO 2・PIANO 3のボタンを同時に押して、設定モードに入ります。

この時、CHORUSのランプとPIANO 1のランプが点滅しますが、これは、プログラム・ナンバーの送信モードであることを示します。受信楽器のプログラム(音色)ナンバーを設定します。(*2)

プログラム・ナンバーの送信には、次の2つの方法があります。

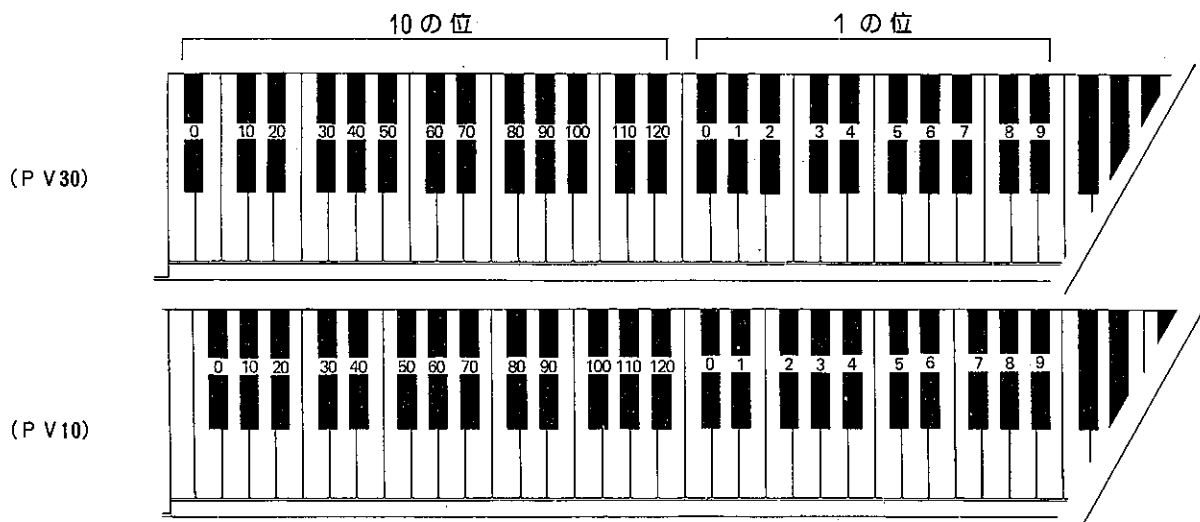
▶ 黒鍵によるプログラム・ナンバーの送信

左端(低音部)から13個の黒鍵で10の位(0~120)、次の10個で1の位(0~9)を設定します。(*3)

(*1) 設定モードでPIANO 1のランプが点滅している場合は、次に説明するプログラム・ナンバーの設定をすることができます。

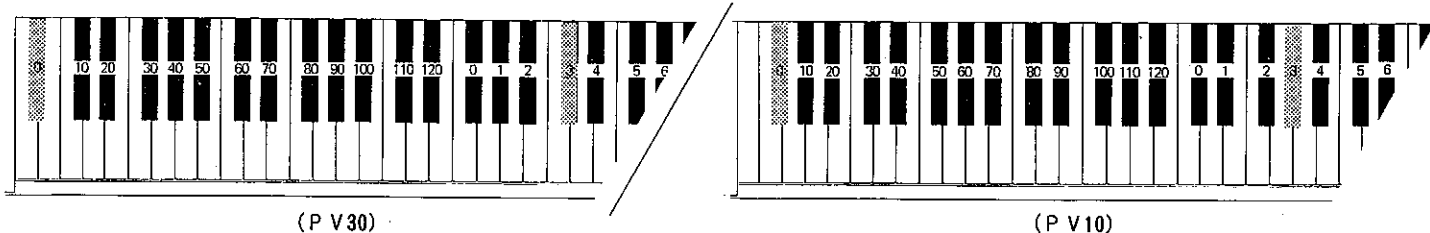
(*2) PVシリーズが受信楽器となっている場合、受信したプログラム・ナンバーは、音色セレクトボタンに対応して(左からプログラムNO.0=PIANO 1、NO.1=PIANO 2……NO.15=BRASS)発音されます。ただし、マルチティンバー・モードが設定されている場合は、22ページ参照。

(*3) 10の位を押してから1の位を押します。

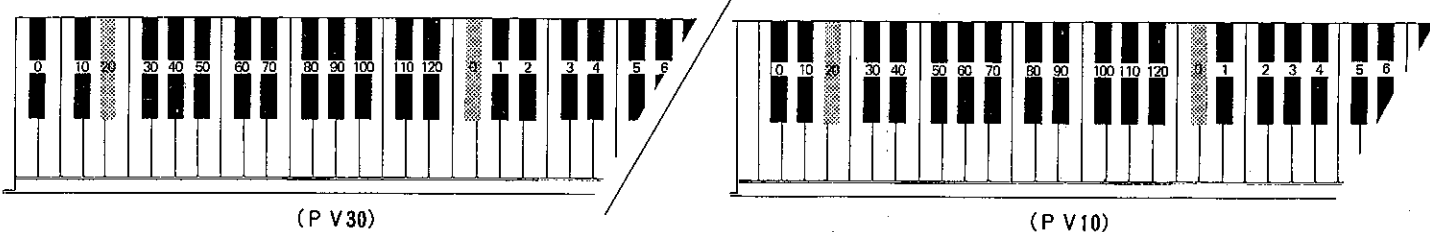


●プログラムナンバー送信の例

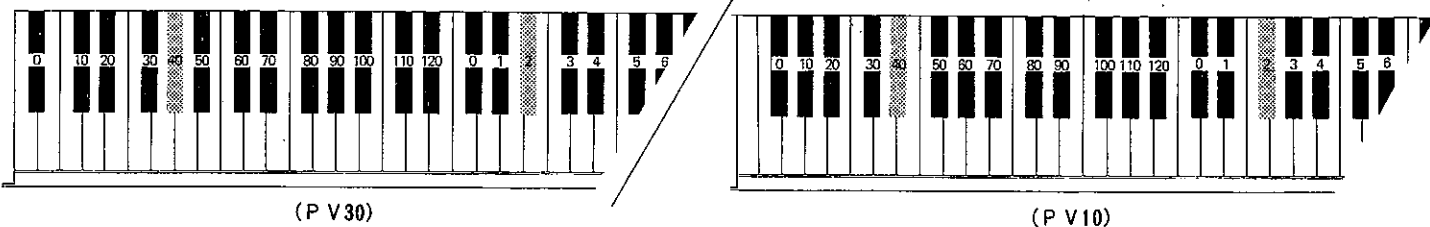
■プログラムNO : 3 10の位の0の黒鍵と1の位の3の黒鍵を押します。



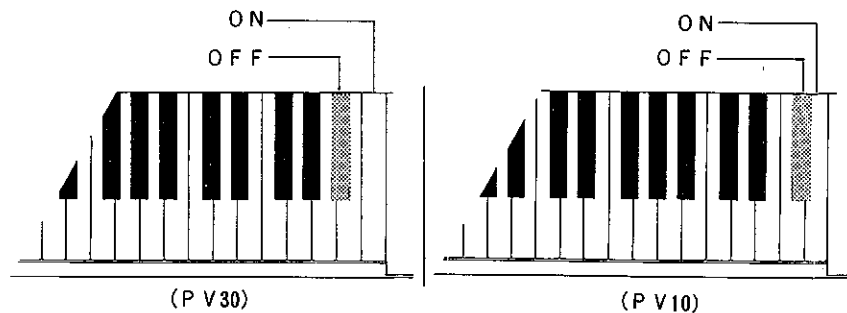
■プログラムNO : 20 10の位の20の黒鍵と1の位の0の黒鍵を押します。



■プログラムNO : 42 10の位の40の黒鍵と1の位の2の黒鍵を押します。



◆ 音色セレクトボタンによるプログラム・ナンバーの送信



ON……プログラム・ナンバーの送信モード (CHORUSのランプとPIANO 1のランプが点滅) で右端の白鍵を押します。

設定モードを解除して、演奏中にPV10/30の音色を変えると、接続している楽器 (シンセサイザー等) の音色も変えることができます。(*4)

OFF……プログラム・ナンバーの送信モード (CHORUSのランプとPIANO 1のランプが点滅) で右端の黒鍵を押します。

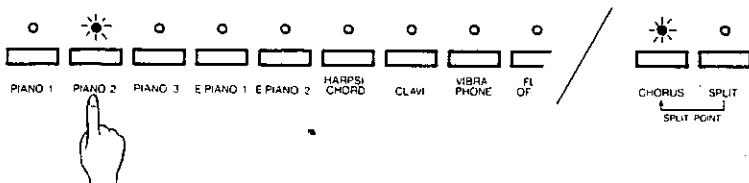
音色セレクトボタンによるプログラム・ナンバーの送信はしなくなります。

プログラム・ナンバーの設定が終わったら、他の機能の設定に移ります。設定をしない場合は、CHORUSのボタンを押して設定モードを解除します。

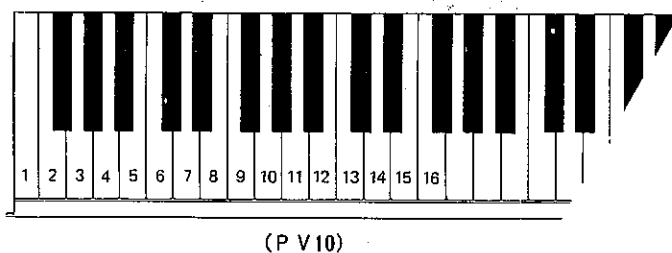
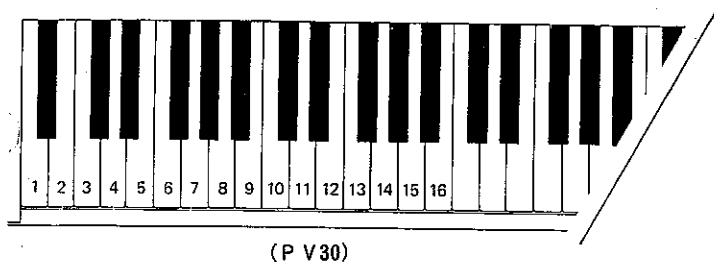
(*4) 送信されるプログラム・ナンバーは、音色セレクトボタンに対応しています。(左からPIANO 1=プログラムNo. 0、PIANO 2、=No.1、PIANO 3 =No.2……BRASS=No.15)

●MIDI送・受信チャンネルの設定

CHORUSボタンを押しながらPIANO 1・PIANO 2・PIANO 3のボタンを同時に押し、設定モードに入ります。この状態でPIANO 2のボタンを押すとPIANO 2とCHORUSのランプが点滅し、MIDIチャンネルの設定モードに入っていることを示します。



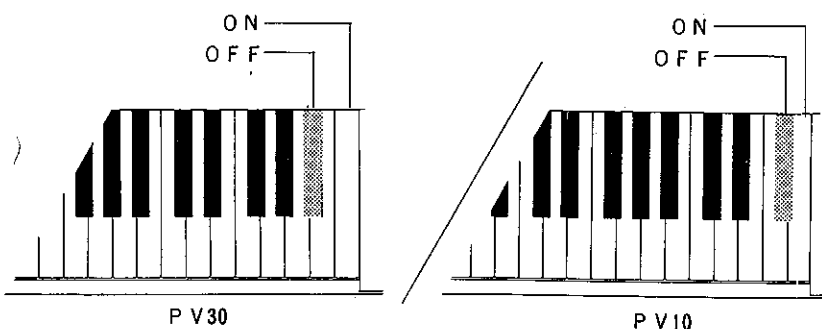
MIDIチャンネルの設定は左端（低音部）から16個の白鍵を使用します。



チャンネルNoは、1～16チャンネルまで設定できます。設定したいナンバーの鍵盤を押すと、送信チャンネル、受信チャンネルともそのナンバーに設定されます。（*5）

●マルチティンバー・モードの設定

マルチティンバー・モードがONの場合にMIDI信号を受信すると、それぞれのチャンネルに対応した、複数の音色を同時に出すことができます。（*6）



ON……MIDIチャンネルの設定モード（PIANO 2とCHORUSのランプが点滅）で右端の白鍵を押します。（*7）

OFF……MIDIチャンネルの設定モード（PIANO 2とCHORUSのランプが点滅）で右端の黒鍵を押します。

（*5）電源ON時は、MIDIチャンネル1、オム＝ONに設定されています。（チャンネルの設定をするとオム＝OFFになります。）

（*6）マルチティンバーONの状態ですプリット・モードに入ると、高音側の送信チャンネルは前に設定したチャンネルに、また、低音側の送信チャンネルは自動的に（高音側の送信チャンネル）+1に設定されます。ただし、高音側を16チャンネルに設定した場合は、低音側は、1チャンネルに設定されます。

*7）MIDIチャンネルの設定モードの入りは、前項を参照。

マルチティンバー・モードがONの場合に、それぞれの受信チャンネルで発音される音色は、次の表のとおりです。

受信チャンネル	音色	プログラムNo	備考
1	PIANO 1-3	0-2	No.0-2はPIANO 1-3に対応しています。 (No.3以上は、PIANO 1になります。)
2	E.PIANO 1-2	0-1	No.0-1はE.PIANO 1-2に対応しています。 (No.2以上は、E.PIANO 1になります。)
3	HARPSICHORD	0-127	全てHARPSICHORD
4	CLAVI	0-127	全てCLAVI
5	VIBE	0-127	全てVIBE
6	FULL ORGAN, JAZZ ORGAN	0-1	No.0はFULL ORGAN、No.1は、JAZZ ORGAN (No.2以上は、FULL ORGANになります。)
7	STRINGS	0-127	全てSTRINGS
8	GUITAR	0-127	全てGUITAR
9	MARIMBA	0-127	全てMARIMBA
10	FLUTE	0-127	全てFLUTE
11	CLARINET	0-127	全てCLARINET
12	BRASS	0-127	全てBRASS
13	CHORD 1-9	0-8	別表1参照(3音ポリフォニック)
14	COUNTER MELODY 1-9	0-8	別表1参照(2音ポリフォニック)
15	BASS 1-9	0-8	別表1参照(モノフォニック)
16	PCMドラム	-	プログラムNoは無視されます。各パーカッション音は鍵盤に対応していません。別表2参照

別 表 1

プログラム 音色 ムNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9
CHORD	PIANO	E.PIANO	CLAVI	BANJO	A.GUITAR	E.GUITAR	BRASS	ACCORDION	SYNTH
C.MELODY	PIANO	BELL	E.GUITAR	FUZZ GUITAR	BRASS	TRUMPET	CLARINET	FLUTE	VIORIN
BASS	A.BASS 1	A.BASS 2	E.BASS 1	E.BASS 2	E.BASS 3	CHOPPER	TUBA	SYNTH BASS 1	SYNTH BASS 2

別 表 2

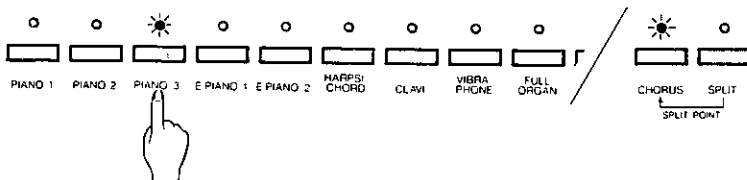
鍵盤	楽器名	鍵盤	楽器名
D2	BASS DRUM	E3	BONGO Hi
D2#	RIM SHOT	F3	BONGO Lo
E2	SNARE DRUM	F3#	COWBELL
F2	ELECTRIC SNARE	G3	CONGA Hi
F2#	CLAPS	G3#	AGOGO Hi
G2	TOM Hi	A3	CONGA Lo
G2#	Hi HAT CLOSED	A3#	AGOGO Lo
A2	TOM Mid	B3	TIMBALES Hi
A2#	Hi HAT OPEN	C4	TIMBALES Lo
B2	TOM Lo	C4#	TRIANGLE CLOSED
C3	ELECTRIC TOM Hi	D4	TAMBOURINE
C3#	CRASH	D4#	TRIANGLE OPEN
D3	ELECTRIC TOM Lo	E4	CLAVES
D3#	RIDE	F4	SHAKER

(88鍵の最低のCをC1とします)

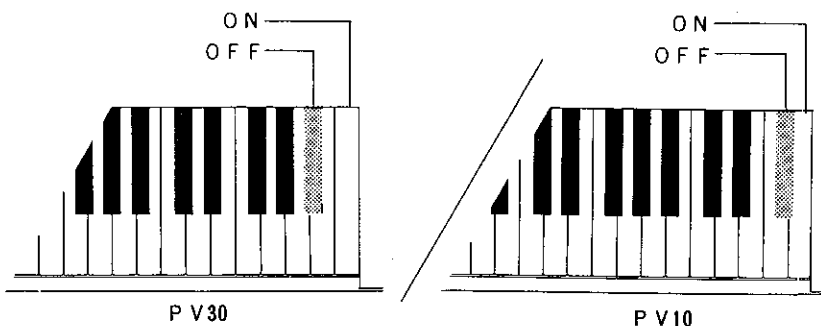
MIDIチャンネルおよびマルチティンバー・モードの設定が終わったら他の機能の設定に移ります。設定をしない場合は、CHORUSのボタンを押して設定モードを解除します。

●ローカルコントロールの設定

ローカルコントロールがOFFの場合は、PV10/30の鍵盤を押しても音が出ません。接続したMIDI楽器からMIDI信号を受信した場合のみ、本体から音が出ます。通常の状態では、ONになっています。(*8) CHORUSのボタンを押しながらPIANO 1, PIANO 2, PIANO 3のボタンを同時に押して、設定モードに入ります。この状態でPIANO 3のボタンを押します。



CHORUSとPIANO 3のランプが点滅して、ローカルコントロールの設定モードに入ったことを示します。



OFF……右端の黒鍵を押します。

ON……右端の白鍵を押します。(*9)

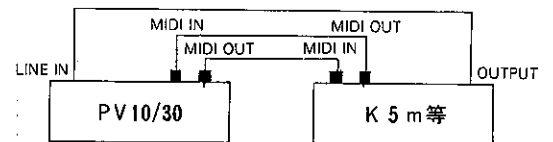
ローカルコントロールの設定が終わったら他の機能の設定に移ります。設定をしない場合は、CHORUSのボタンを押して設定モードを解除します。

●同期演奏

PVシリーズでは、クロックおよびスタート/ストップ情報を送信しています。

ドラムマシン(R100/R50等)と接続すれば、PV10/30でドラムマシンのリズムをスタート/ストップさせたり、PV10/30のテンポに合わせてドラムマシンのリズムを演奏することができます。(*10)

(*8) 音源モジュール(K5m等)の音源を使用する場合には、次のように接続して、電子ピアノのローカルコントロールを、OFFに設定します。

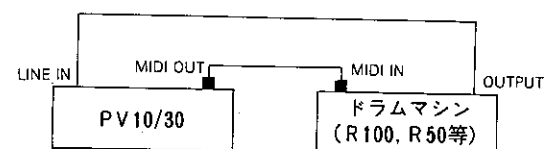


上図のような接続例では、音の重ね合わせの他に、鍵盤上で2つの音色を分割して出すこともできます。

(音源モジュール側の設定は、各機器の取扱説明書を参照ください。)

(*9) 右端の白鍵を押す替わりに、電源をONし直してもローカルONに戻ります。

(*10) ドラムマシンとの接続例



第7章 その他の機能

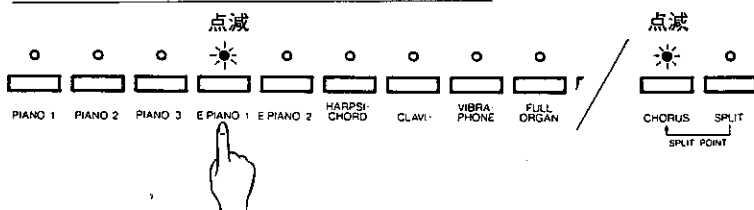
■チューニング機能

チューニング機能により、他の楽器とチューニングする（音の高さを合わせる）ことができます。

1 CHORUSボタンを押しながらPIANO 1, PIANO 2, PIANO 3を同時に押します。

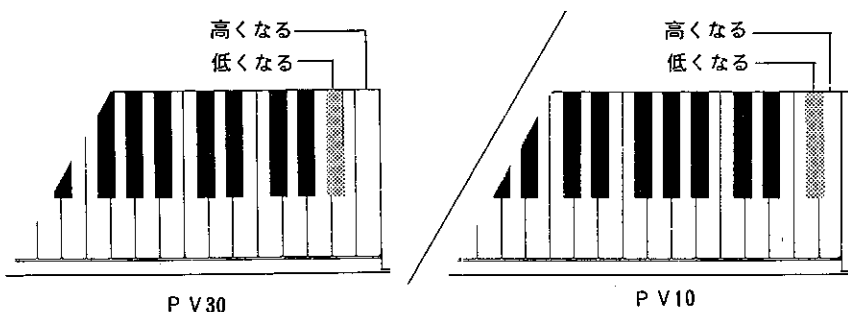
この操作はMIDIモードに入る場合と同じです。

2 E.PIANO 1のボタンを押します。



CHORUSとE.PIANO 1のランプが点滅して、チューニング調整モードに入ったことを示します。（*1）

3 右端の白鍵・黒鍵を押します。



右端の白鍵（黒鍵）を押すごとに、少しずつ音の高さが、高く（低く）なっています。

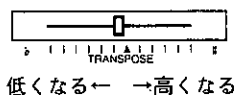
4 CHORUSボタンを押して設定モードを解除します。

設定した音の高さにセットされます。（*2）

■トランスポーズ機能

トランスポーズ機能により、鍵盤上での難しい転調をしなくても、そのまま調を変えることができます。（*1）

1 トランスポーズレバーで調整します。（*2）



（*1）このモードに入って鍵盤を押すと、このモードに入る前にセットされていた音が出ます。（調整用の白鍵・黒鍵を除く）他の楽器とのチューニングはこの音で行います。

（*2）電源をONし直した場合は、もとの音の高さに戻ります。

（*1）歌の伴奏をする時などは、この機能が役立ちます。
このとき鍵盤を連打しながら調を変えてください。鍵盤を押えたままトランスポーズレバーを動かしても調は変化しません。

（*2）可変範囲は、Cを基準にしてF#～Fまでです。（パネル上の1日盛りは、半音となっています。）

■ソフトペダルへの機能の割り付け

PVシリーズでは、電源ON時に次の操作をすることにより、各機能をソフトペダルに割り付けることができます。(※1)

◆通常のソフトペダルとして機能させるには……

通常の電源ON操作を行います。(※2)

◆ソステヌートペダルとして機能させるには……

ソフトペダルを踏みながら電源ONします。(※3)

◆リズムセクションのスタート/ストップスイッチとして機能させるには……

リズムセクションのスタート/ストップボタンを押しながら電源ONします。

◆フィル・インスイッチとして機能させるには……

フィル・インボタンを押しながら電源ONします。

◆イントロ/エンディングスイッチとして機能させるには……

イントロ/エンディングボタンを押しながら電源ONします。

(※1) ソフトペダル(左側)、ダンパーペダル(右側)は、オプションのスタンドに装備されています。また各ペダルは、本体背面の専用端子に接続します。

(※2) ソフトペダルに割り付けられた各機能を解除する場合は、電源を入れ直します。

(※3) ペダルを踏んだ時に押さえられていた音だけが保持されます。

コード早見表

*すべて基本形で表示されています。

メジャーコード

C	
C [♯] (D ^b)	
D	
E ^b (D [♯])	
E	
F	
F [♯] (G ^b)	
G	
A ^b (G [♯])	
A	
B ^b (A [♯])	
B	

マイナーコード

Cm	
C [♯] m (D [♯] m)	
Dm	
E [♯] m (D [♯] m)	
Em	
Fm	
F [♯] m (G [♯] m)	
Gm	
A [♯] m (G [♯] m)	
Am	
B [♯] m (A [♯] m)	
Bm	

セブンスコード

C7	
C [♯] 7 (D [♯] 7)	
D7	
E [♯] 7 (D [♯] 7)	
E7	
F7	
F [♯] 7 (G [♯] 7)	
G7	
A [♯] 7 (G [♯] 7)	
A7	
B [♯] 7 (A [♯] 7)	
B7	

マイナーセブンスコード

Cm7	
C [♯] m7 (D [♯] m7)	
Dm7	
E [♯] m7 (D [♯] m7)	
Em7	
Fm7	
F [♯] m7 (G [♯] m7)	
Gm7	
A [♯] m7 (G [♯] m7)	
Am7	
B [♯] m7 (A [♯] m7)	
Bm7	

メジャーセブンスコード

CM7	
C [♯] M7 (D [♯] M7)	
DM7	
E [♯] M7 (D [♯] M7)	
EM7	
FM7	
F [♯] M7 (G [♯] M7)	
GM7	
A [♯] M7 (G [♯] M7)	
AM7	
B [♯] M7 (A [♯] M7)	
BM7	

ディミニッシュコード

Cdim	
C [♯] dim (D [♯] dim)	
Ddim	
E [♯] dim (D [♯] dim)	
Edim	
Fdim	
F [♯] dim (G [♯] dim)	
Gdim	
A [♯] dim (G [♯] dim)	
A [♯] dim	
B [♯] dim (A [♯] dim)	
Bdim	

オーギュメントコード

Caug	
C [♯] aug (D [♯] aug)	
Daug	
E [♯] aug (D [♯] aug)	
Eaug	
Faug	
F [♯] aug (G [♯] aug)	
Gaug	
A [♯] aug (G [♯] aug)	
Aaug	
B [♯] aug (A [♯] aug)	
Baug	

マイナーセブンス
フラットファイブコード

Cm7 ⁻⁵	
C [♯] m7 ⁻⁵ (D [♯] m7 ⁻⁵)	
Dm7 ⁻⁵	
E [♯] m7 ⁻⁵ (D [♯] m7 ⁻⁵)	
Em7 ⁻⁵	
Fm7 ⁻⁵	
F [♯] m7 ⁻⁵ (G [♯] m7 ⁻⁵)	
Gm7 ⁻⁵	
A [♯] m7 ⁻⁵ (G [♯] m7 ⁻⁵)	
Am7 ⁻⁵	
B [♯] m7 ⁻⁵ (A [♯] m7 ⁻⁵)	
Bm7 ⁻⁵	

セブンスサスフォーコード

C7sus4	
C [♯] 7sus4 (D [♯] 7sus4)	
D7sus4	
E [♯] 7sus4 (D [♯] 7sus4)	
E7sus4	
F7sus4	
F [♯] 7sus4 (G [♯] 7sus4)	
G7sus4	
A [♯] 7sus4 (G [♯] 7sus4)	
A7sus4	
B [♯] 7sus4 (A [♯] 7sus4)	
B7sus4	

サスフォーコード

Csus4	
C [♯] sus4 (D [♯] sus4)	
Dsus4	
E [♯] sus4 (D [♯] sus4)	
Esus4	
Fsus4	
F [♯] sus4 (G [♯] sus4)	
Gsus4	
A [♯] sus4 (G [♯] sus4)	
Asus4	
B [♯] sus4 (A [♯] sus4)	
Bsus4	

ナインスコード

C9	
C [♯] 9 (D [♯] 9)	
D9	
E [♯] 9 (D [♯] 9)	
E9	
F9	
F [♯] 9 (G [♯] 9)	
G9	
A [♯] 9 (G [♯] 9)	
A9	
B [♯] 9 (A [♯] 9)	
B9	

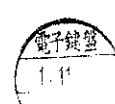
仕 様

		PV30	PV10
鍵盤		88鍵	76鍵
音色	アッパー	ピアノ1,2,3,,エレクトリック・ピアノ1,2,ハーブシコード,クラビ,ビブラホン, フル・オルガン,ジャズ・オルガン,ストリングス,ギター,マリンバ,フルート, クラリネット,ブラス	
	ローア	ピアノ1,2,3,エレクトリック・ピアノ1,2,ハーブシコード,クラビ,ビブラホン,フル・オ ルガン,ジャズ・オルガン,ストリングス,ウッド・ベース,エレクトリック・ベース,スラ ップ・ベース,シンセ・ベース,チューバ(ベース音色はスプリット時のみ)	
演奏モード		シングル(ノーマル),デュアル,スプリット	
エフェクト		コーラス	
リズム・セクション		ポップス1/2,ディスコ/ダンス,8ビート/16ビート,シャッフル1/2,カントリー1/2,バラ ード1/2,スイング1/2,バウンス1/2,サルサ/サンバ,ルンバ/ボサノバ,ロックンロール1/2,レ ゲエ1/2,タンゴ1/2,ヘビーロック1/2,ワルツ/ジャズワルツ,マーチ/ポルカ バリエーション,テンポ・バリエーション,オート・フィルイン,リズム・ボリューム,テ ポ・コントロール,スタート/ストップ,シンクロ・スタート,イントロ/エンディング, フィルイン	
オート・プレイ・ アカンパニメント		オート・プレイ・アカンパニメントON,カウンター・メロディー・ボリューム,コード・ ボリューム,ベース・ボリューム	
プログラム・シーケンサー		トラック1:メロディー,トラック2:アカ ンパニメント,トラック1ボリューム,トラ ック2ボリューム,マジ,リピート,ス タート/ストップ,ポーズ	-
プログラム・カード		セーブ,ロード,カード	-
コントロール		パワースイッチ,マスター・ボリューム,スプリット/デュアル・バランス,スプリット・ボ イント変更,トランスポーズ,チューン,MIDIモード設定(マルチティンバー)	
外部端子		ヘッドホン,ソフト・ペダル(ソフト,ソステヌート,スタート/ストップ,イントロ/エンデ ィング,フィルイン),ダンパー・ペダル,MIDI(IN, OUT, THRU),ライン・イン (L(MONO)/R),インプットレベル・スイッチ(H/L),ライン・アウト(L(MONO) /R),アウトプットレベル・スイッチ(H/L),エクスプレッションペダル	
出力		20W×2	10W×2
スピーカー		16cm×2/6cm×2	16cm×2/6cm×2
定格電力		AC100V, 50/60Hz	
消費電力		42W	30W
仕上げ		ヨーロッパングレー/ロイヤルウッド	
寸法(スタンド含む)		W138×D46×H78cm	W122×D46×H78cm
重量(スタンド含む)		47.5kg	42.5kg
付属品		譜面立て,ダストカバー,RAMカード(DC-32)	譜面立て,ダストカバー

ファンクション・・・	送信	受信	備考
ベーシック電源ON時 チャンネル設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード電源ON時 メッセージ 代用	3 × *****	1 1,3*** ×	オムニオン電源ON時 MIDIチャンネル設定 *** 操作によりオムニオ フ。
ノート ナンバー : 音域	21-108 * 28-103 ** *****	0-127 15-113	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○9nH, V=1-127 ×9nH, V=0,8nH	○ ×	V=1-127
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール チェンジ	64 ○(右ペダル) 66 ○(左ペダル) 67 ○(左ペダル)	○ × ○	ダンパー ソステヌートペダル ソフトペダル
プログラム チェンジ : 設定可能範囲	○(0-127) *****	○(0-127) (0-15)	16-127=0
エクスクルーシブ	×	×	
: ソング・ポジション コモン: ソング・セレクト : チューン	× × ×	× × ×	
リアル: クロック タイム: コマンド	○ ○ (スタート, ストップ)	× ×	
: ローカルON/OFF その他: オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : リセット	× ○ ○ ×	○ ○ ○ ×	
備考	* PV30 15-113 トランスポートズによって変化する。 ** PV10 22-108 トランスポートズによって変化する。		

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ



○: あり
×: なし

KK 株式会社河合楽器製作所

〒430 静岡県浜松市寺島町200 TEL.0534 (57) 1277

北海道支社 ☎(011)231-8661
〒060 札幌市中央区南2条東2丁目16

仙台支社 ☎(022)223-3181
〒980 仙台市本町2-14-5 菅原ビル内

関東支社 ☎(03)379-2221
〒151 東京都渋谷区代々木1-36-4 全理連ビル
北関東支店 ☎(0273)61-1771
東京支店 ☎(03)379-2226
東関東支店 ☎(0472)24-1115
城北支店 ☎(03)987-2021

中部支社 ☎(052)962-7211
〒460 名古屋市中区錦3-15-15 有楽河合ビル6F
静岡支店 ☎(0534)52-4134
名古屋支店 ☎(052)962-7211
北陸支店 ☎(0762)62-8236

関西支社 ☎(06)262-2131
〒541 大阪市東区備後町4-41 静岡県産業ビル
京都支店 ☎(075)341-3030
大阪支店 ☎(06)262-2131
神戸支店 ☎(078)361-5440
広島支店 ☎(082)232-7351
四国支店 ☎(0878)34-3616

九州支社 ☎(092)521-3931
〒810 福岡市中央区清川1-7-12 大戸ビル
3F

*製品の仕様及び価格はおことわりなく変更する場合があります。